

T I C A D 9 テーマ別イベント 実施報告書

団体名 TICAD NGO 連絡グループ

代表者 稲場雅紀（業務担当）

イベント 名称	市民社会を通じた開発を再構想する：危機の時代に SDGs と「アジェンダ 2063」 実現をどう進めるか
実施日	2025 年 8 月 20 日
実施場所	パシフィコ横浜 展示ホール D（S-10 会場）
実施概要 （100 字以 内）	TICAD に取り組む日本の NGO のネットワークである「TICAD NGO 連絡グループ」と、アフリカの市民社会のネットワークである「アフリカ市民協議会」（CCfA1）の共催企画。2020 年代、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）パンデミックを経て、アフリカは債務問題をはじめとした経済的苦境や貧困・格差を背景とした政治不安などに直面している。さらにトランプ政権による援助停止をはじめとした援助の低落傾向の中で、アフリカが人間中心で脱植民地化された開発アプローチを打ち立てるにはどうすればよいか、アフリカの市民社会が中心となって分析と考察を行った。
実施内容	CCfA のマウンゴ・ムーキ議長（ボツワナ）の開会挨拶に続き、外務省国際協力局の今西靖治参事官（地球規模課題担当）が、アフリカ開発に関する日本の役割について、その変遷をたどり、今回の TICAD9 における日本の貢献策についても説明した。その後、現状のアフリカの開発の現状について、SDGs ケニアフォーラムのフローレンス・シェブオ事務局長が SDGs、アフリカの貿易や債務に関する問題についてユージー・ジャーニガン・「貿易と持続可能な開発のための緑の行動」事務局長（ケニア）、紛争やガバナンスの課題について、ウマル・ポール・コアラガ・国際関係戦略研究所長（ブルキナファソ）が提起。その後、社会的に脆弱な立場に置かれている様々なコミュニティの状況について、まず、マウンゴ・ムーキ議長が女性について、マイケル・ワウ・グウェイ・CCfA 中央アフリカ代表が若者について、アフリカにおける障害者の状況について、アヤスー・コミヴィ・アフリカ障害フォーラム執行委員（トーゴ）、暴力的過激主義とこれに直面する人々についてコアラガ氏、保健課題についてフィツム・ラケウ・アレマイユ WACi Health アフリカ連合リエゾン・マネジャー（エチオピア）が提起した。深刻な状況を乗り越え、SDGs 達成に向けて市民社会の力が必要、ということで、閉会挨拶をアフリカ日本協議会の稲場共同代表が行った。
参加者数	80 人
実施の効果 など	主催団体が活動の報告や広報を行うケースが多い「テーマ別イベント」の中で、多分野からアフリカ開発に関わるアフリカの市民社会リーダーや、障害者などコミュニティのリーダーが一堂に会し、アフリカの市民社会が主導する形で組み立てられたイベントは貴重であった。今西参事官が日本のアフリカ援助の政策を中心的に報告したのも、参加者にとって有意義であったと考えられる。

※ 写真、報道記事等の資料を添付してください。

平日・夜間ということで参加者が少ないのではと心配されたが、満員に近い状態となった。

